＜学術的読み物＞

大学教育における「臨床心理学」の現状とこれから

楛　本　知　子
人間科学部　心理臨床・子ども学科　心理臨床コース
nkunugim@toua-u.ac.jp

1　はじめに

心理職の国家資格化の実現が目前に迫った今，大学における臨床心理学教育を見直し，これからのあり方を改めて検討することは最重要課題であると言える。心理学は基礎心理学と応用心理学に大別され，臨床心理学は応用心理学を代表とする領域のひとつである。では，臨床心理学は基礎心理学とどのような関係にあるのだろうか。また，「心理臨床学」という呼ばれる学問は，臨床心理学と異なるのであろうか。異なるならば，なにがどのように違うのか。そもそも臨床心理学とはどのような学問なのだろうか。

大学で教鞭を執る心理学教員であっても，臨床心理学と心理臨床学を明確に区別し，臨床心理学，心理臨床学と基礎心理学がどのような関係にあるのかを説明できるとは限らないと思われる。基礎心理学だけではなく臨床心理学または心理臨床学を専門としていても，この三者関係を正確に説明できる教員は少ないと推察されるからである。

本稿では，日本の大学教育における基礎心理学と臨床心理学，心理臨床学の様相と課題を明示し，その上で今後のあり方を述べていきたい。

2　カリキュラムにおける臨床心理学，心理臨床と基礎心理学

2008 年 4 月に日本学術会議の心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会と，心理学･教育学委員会健康･医療と心理学分科会が，対外報告「学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパス確立に向けて」を発表した。この対外報告では，医療や教育，産業，福祉などのさまざまな領域で活動できる心理学専門家を育て，心理学を専攻する大学生のキャリアパスを広げるために，学部での心理学教育の質を高めていくことが急務であり，この緊急課題の解決は，心理学に対する社会一般の誤った解釈の修正も可能にすると報告されている。そして，この緊急課題解決の取り組みの一つとして，学部における心理学教育の基準カリキュラムが提案された。「心理学教育の基準カリキュラム」は，公益社団法人日本心理学会による認定心理士資格の判断基準を踏まえて策定されたもので，心理学の基礎科目と専門領域科目から構成される。臨床心理学は，専門領域科目に応用心理学のひとつとして位置づけられている（表 1 を参照）。

認定心理士の資格は，日本心理学会が認める心理学の基礎資格で，学部教育において心理学に関する標準的な基礎知識と基礎技能を修得し，所定の科目の単位を取得することで得られる。認定心理士資格認定の判断基準は 2014 年度に改訂されている。表 2 に認定心理士の 2014 年度改訂版新基準の抜粋を示した。基礎科目としての「臨床心理学概論」は行動科学として位置づけられている。選択科目の臨床心理学・人格心理学領域では,「臨床心理学」とともに「精神分析学」「自我心理学」「心理療法」「行動療法」「カウンセリング」が並んでいる。臨床心理学は精神分

析学や心理療法，カウンセリングと独立した，行動科学の科目として設定されている。

一方，心理職の国家資格を目指す「公認心理師」（仮称）に関して，一般社団法人日本心理臨床学会がその受験資格を得るための学部教育カリキュラム案を作成し公表している[1)]。このカリキュラム案では，心理学基礎科目として「心理学概論」「心理学研究法」「心理学統計法」「心

表1　心理学教育の基準カリキュラム

内容種別/指導目的	授業科目（授業形式）
1．オリエンテーション/知識習得 （基礎科目）	心理学概論（講義：含む心理学史） 心理学研究法（講義）
2．説明理論/知識習得 （専門領域科目）	＊ 知覚心理学（講義） ＊ 行動心理学（講義：含む学習心理学） ＊ 神経心理学（講義：含む生理心理学） ＊ 認知心理学（講義） ＊ 感情心理学（講義） ＊ 個性心理学（講義） ＊ 社会心理学（講義） ＊ 発達・進化心理学（講義） 臨床心理学（講義） 教育・学校心理学（講義） 組織心理学（講義：含む産業心理学） 障害・福祉心理学（講義） 健康・医療心理学（講義） 司法・犯罪心理学（講義）
3．技法理論/知識習得 （専門領域科目）	観察・面接法（講義） 検査・測定法概論（講義） 研究・実務倫理論（講義）
4．技法理論/技術習得 （専門領域科目）	心理アセスメント基礎（実習）
5．技法理論/技術習得 （専門領域科目）	心理面接基礎（実習）
6．方法論/知識習得 （基礎科目）	心理統計学基礎（講義） テスト構成・質問紙構成法（講義）
7．方法論/技術習得 （基礎科目）	心理学基礎実験（実習） 研究法：統計処理・実験機器操作（実習） 研究法：データ収集と質的解析（実習）
8．学術的技能/技術習得 （基礎科目）	情報収集／文献検索（実習） 論文講読・論文執筆　（実習）
9．心理学以外の理論／知識習得	学士課程の全学教養的共通科目

注）専門領域科目で*印の８科目に加え，*印のない科目の中から(職能種や専攻の教育目的により学士課程で決定する)を選択し，最低 25 科目の必修科目で構成する。なお，心理学の卒業論文単位と全学共通教育の単位はこれ以外の必修単位とする。

日本学術会議(2008) 対外報告「学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパス確立に向けて」より引用

表2　認定心理士の資格取得に必要な単位と科目名例（一部抜粋）－新基準（2014年度改訂版）－

	領域	該当科目例	
		基本主題	副次主題
基礎科目	a：心理学概論 心理学を構成する主な領域に関し，均整のとれた基礎知識を備えるための科目	心理学概論 教育心理学概論 基礎心理学 一般心理学 行動科学概論 行動科学	心理学史 社会心理学概論 学習心理学概論 人格心理学概論 発達心理学概論 臨床心理学概論
選択科目	g：臨床心理学・人格心理学	臨床心理学　児童臨床心理学 人格心理学　障害者心理学 性格心理学　行動障害論 健康心理学　適応障害論 福祉心理学　適応の心理 異常心理学　臨床心理学実習 精神分析学　心理検査実習 自我心理学　犯罪心理学 心理療法　非行心理学 行動療法　矯正心理学 カウンセリング　教育相談 面接技法	精神医学 行動医学 心身医学 精神保健学

公益社団法人　日本心理学会ホームページより一部抜粋し引用

理学基礎実験実習」が「心理検査実習」や「心理面接実習」とともに，すべて必修科目として設定されている。前述の日本学術会議（2008）の対外報告では「心理学専門の職業領域に従事する者にとって，学士課程での質の高い心理学専門基礎教育の見直しと整備が喫緊の課題」とされていたが，この課題解決が図られた形となっている。そして，臨床心理学関連科目のなかに「臨床心理学概論」「心理療法論」「認知行動療法論」「カウンセリング心理学」が各々独立した科目として設定されている。臨床心理学は心理療法やカウンセリング心理学と別個の独立した学問としてカリキュラムに位置づけられ，学部での基礎心理学教育が重視されている。

3　臨床心理学，心理臨床学と基礎心理学の関係

3－1　基礎心理学と心理臨床学の関係

日本では基礎心理学と心理臨床学が乖離し，「基礎心理学は科学的だが，心理臨床学は非科学的」といった対立が顕在化することも珍しくなかった。「基礎心理学」対「心理臨床学」という構図は，そのまま大学教育に反映された形となっていた。心理臨床学は心理療法とカウンセリングを含めたものを指し，臨床心理学とは異なる学問である。基礎心理学との乖離または対立が生じているのは心理臨床学であって，臨床心理学ではない。その理由として，1）代表的な心理療法である心理力動的療法およびカウンセリングは，いずれも基礎心理学を基盤としていないこと，2）臨床心理学は基礎心理学を基盤とするが，日本ではまだ育っていないこと，3）臨床心理学，心理療法，カウンセリングが日本では明確に区別して扱われていないこと，の3点が挙げられている（下山，2010より引用）。

下山（2010）と丹野（2006）に基づいて，心理療法，カウンセリング，臨床心理学がどのようなもので，なにがどのように違うのかについて，以下に説明する。

3－2　心理療法

心理療法は特定の理論に基づいた介入の総称で，精神分析をはじめ数多の種類がある。日本でもっとも発展を遂げた心理療法はJung, C.G.の分析心理学に依拠したユング派心理療法であるが，精神分析と同様に基礎心理学を基盤としていない。また，精神分析やユング派心理療法などの，いわゆる心理力動的療法は科学的検証に後ろ向きのスタンスをとってきた。これらのことが，基礎心理学との乖離や対立を生む要因となっていると考えられている（下山，2010，丹野，2006より引用）。一方で，認知行動療法については，その多くが学習心理学を基礎理論とし実証に基づいているため，基礎心理学と良好な関係にあると言える。Beck, A.T.の認知療法のように，認知行動療法のなかには学習心理学を基盤としないものもあるが，実証に基づいたアプローチ（evidence based approach）が取られている点で心理力動的療法と一線を画する。

3－3　カウンセリング

カウンセリングはRogers，C.R.の自己理論に基づいた人間性重視のアプローチを中心とした活動であるが，キャリアカウンセリングや結婚カウンセリングなどのように，心理学以外の幅広い領域に開かれ，人間援助の総合学としてのカウンセリング心理学へと発展を遂げている。心理力動的療法と同様に，カウンセリング心理学は基礎心理学を基盤としていないが，これまでの流れの中でさまざまな技法を柔軟に取り入れてきた（下山，2010，丹野，2006より引用）。これは心理力動的療法とは相反するが，臨床心理学と共通する特徴である。

3－4　臨床心理学

臨床心理学は科学者-実践者モデル（scientist-practitioner model）を基本モデルとした包括的な実践科学で，実践活動，研究活動および社会的専門活動（専門活動）から構成される（下山，2010）。そのため，臨床心理学では基礎心理学の科学性と臨床心理援助の専門性の両方をバランスよく修得することが求められる。つまり，真の臨床心理士とは同時に臨床科学者でもある（丹野，2001）。臨床心理学の実践活動には，アセスメントと統合的介入がある。実践活動では，アセスメントに基づいた仮説設定から始まり，仮説に基づいた介入→仮説検証→仮説修正→介入を繰り返し，介入効果のアセスメントで終結する，というプロセスを辿るが，これは基礎心理学の研究プロセスに基づいている。また，心理療法とは異なり，実践活動では仮説に基づいて適切な介入技法を組み合わせて用いられる。それは，クライエントが抱える問題には個人の心理的要因だけでなく，遺伝や神経系などの生物的要因と，対人関係や生活環境，経済状況などの社会的要因が複雑に絡み合っているからである。例えば，クライエントに対して認知行動療法を行い，親にはコンサルテーションを行うといったように，複数の介入技法が用いられるため，統合的介入と呼ばれる（下山，2010より引用）。

前述したように，臨床心理学は基礎心理学に基づいており，科学者-実践者モデルを基本にしているため，実証に基づいたアプローチが取られている。実践活動の有効性を科学的に検証し，実践活動におけるアセスメント―介入プロセスを積み重ねることで，事例特異的ではない仮説の設定が可能になる。そして，その仮説の一般性が科学的に検証されて理論となりうる。これが臨床心理学における研究活動である。また，実践活動を通して新しいアセスメント法を提案することも研究活動に含まれる（下山，2010より引用）。

臨床心理学においてどのような実践活動と研究活動が行われ，どのような成果を挙げているか，どのような課題が存在するかを広く社会に対して説明する責任がある。この説明責任（accountability）を果たすことが，社会的専門活動である。社会的専門活動にはこれ以外にも，臨床心理学の専門職を育成する教育訓練や，医療機関や教育機関，福祉機関など他の専門分野と協働（collaboration）システムを構築し運営するといった活動が含まれる。このような社会的専門活動を行うことで，臨床心理学を社会の中に適切に位置づけることができる（下山，2010より引用）。以上のように，臨床心理学は実践活動だけなく，研究活動および社会的専門活動からなる包括的な実践科学である。

3－5　臨床心理学，心理臨床学と
基礎心理学の関係

下山（2010）は日本における臨床心理学，心理臨床学と基礎心理学の関係を，図1のように示している。心理臨床学と基礎心理学（学術的心理学）を臨床心理学がつなぐ形となっているが，心理臨床学と基礎心理学に比して，臨床心理学の存在があまりに小さすぎる。そのため，下山（2010）が「日本では臨床心理学はほとんど機能していない」と指摘するように，臨床心理学は本来の役割を果たせていないと考えられる。

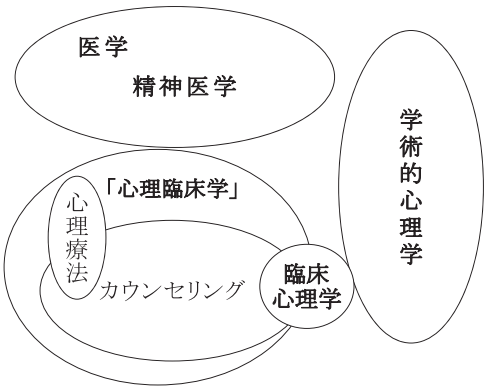

**図1　日本における臨床心理学・心理療法と
カウンセリングの関係　下山（2010）より引用**

一方，図2は，丹野（2006）がまとめたイギリスにおけるこの三者関係を示したものである。イギリスでは，異常心理学が基礎心理学と臨床心理学をつなぐ役割を果たしている。異常心理学は，心理的問題や心理的不適応の発現メカニズムやプロセスを心理学的に研究する領域であるが，日本では異常心理学が発達していない（丹野，2006）。日本に異常心理学会が存在しないことがこのことを証している。

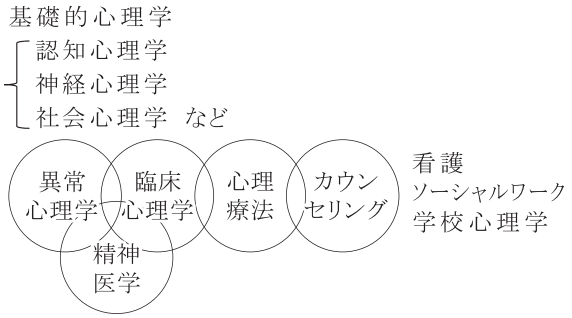

**図2　イギリスの臨床心理学・心理療法・
カウンセリングの関係　丹野（2006）より引用**

下山（2010）に基づき，臨床心理学，心理臨床学と基礎心理学の関係をさらに詳細にまとめたものを図3に示した。この関係のなかでもっとも大きな問題は，前述したように，臨床心理学が育っていないことである。これまで日本では心理力動的療法とカウンセリングが隆盛を極め，そのあおりを受ける形で臨床心理学の発達が遅れている。このことは，日本の心理学の臨床領域においてもっとも会員数の多い学会が「日本心理臨床学会」であることに如実に表れている。しかし一方で，文部科学省の事業として全国の中学校にスクールカウンセラーが配置され，公認心理師の国家資格化があと一歩のところまで来ている。この二つはいずれも臨床心理学の社会的専門活動である。したがって，海外と比べると日本の臨床心理学の進歩は遅いものの，着実に育ちはじめていると言える。

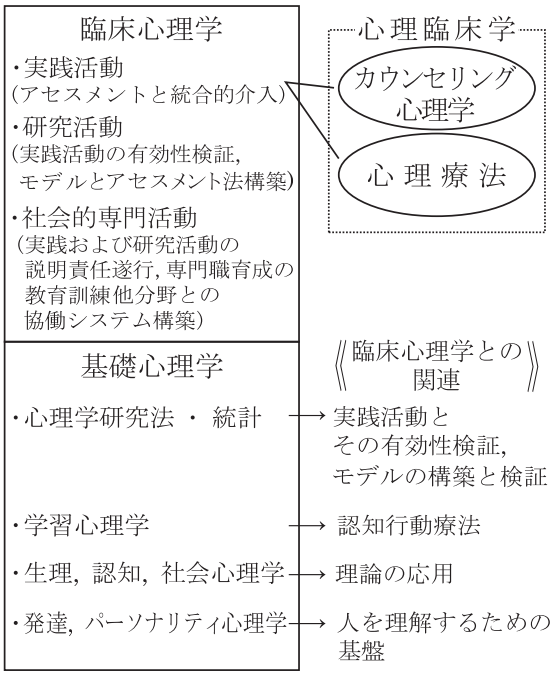

図3　臨床心理学,心理臨床学と基礎心理学の関係

4　シラバスから見た大学教育における「臨床心理学」の現状

4－1　調査の目的

心理職の国家資格は2015年6月現在で存在していない。臨床心理士の有資格者が心理療法やカウンセリングに携わっていることが一般的である。「臨床心理士」は公益財団法人 日本臨床

心理士資格認定協会の認定資格で，この認定協会が指定する臨床心理士指定大学院を修了することにより，資格審査試験の受験資格を得ることができる[2)]。下山（2010）によると，日本の心理臨床学は心理力動的心理療法を理想モデルとしているが，臨床心理士の多くはカウンセラーとして活動しており（スクールカウンセラーはその代表格である），限られたごく一部の臨床心理士しか心理療法を行っていない。さらに，臨床心理学を修めた臨床心理士は「全体数と比較するならば皆無に近い」と言われている（下山，2010）。臨床心理士を養成する臨床心理士指定大学院は専門職大学院を含めて168校にのぼるが，そのほとんどは心理臨床学を修めたカウンセラーまたは心理療法家を養成する大学院であると言っても過言ではないであろう。

では，臨床心理士指定大学院をもつ大学の学部教育において，専門科目の「臨床心理学」は果たして真に臨床心理学なのか，それとも内容は「心理臨床学」に近いのであろうか。この問いについて，各大学の臨床心理学のシラバスの内容から検討することにした。

4－2　調査対象

公益財団法人 日本臨床心理士資格認定協会が指定する第1種指定大学院150校と第2種指定大学院12校の計162校を調査対象とした。各大学のホームページから，専門科目の名称が「臨床心理学」「臨床心理学講義」「臨床心理学特論[3)]」「臨床心理学概論」「臨床心理学概説」「臨床心理学基礎論」「臨床心理学総論」「臨床心理学入門」の2015年度版シラバスを入手した。「臨床心理学Ⅰ」「臨床心理学Ⅱ」など同じ名称の科目が複数にわたって設定されている場合は，内容に「臨床心理学とはなにか」が含まれている科目を対象とした。

シラバスを入手できたのは162校中123校で，分析率は75.9%であった。「心理臨床学」を設定している大学が1校あった。この大学では科目名称が「臨床心理学」等であるシラバスが見あたらなかったため，分析対象にしていない。

4－3　方法

「臨床心理学」の特徴を示すキーワードとして，以下の11種類の用語を採用した。「科学者 - 実践者モデル」「生物 - 社会 - 心理モデル」「エビデンスベースト」「科学」「アセスメント」「実践的活動」「統合的介入」「研究活動または研究」「専門活動または社会的専門活動」「コミュニティ心理学またはコミュニティアプローチ，地域援助（以下コミュニティと略記する）」「コラボレーション，コンサルテーションまたは連携，チーム（以下コラボレーション他と略記する）」である。収集した各大学のシラバスにこのキーワードが記されているかどうかを調べた。

シラバスにおいて，臨床心理学と心理臨床学が弁別されて記載されているか，臨床心理学と心理療法，カウンセリングの違いまたは三者の関係に関する内容があるかどうかについても吟味した。また，どのような教科書や参考書が使用されているかについても検討を行った。

4－4　結果

上述の11種類のキーワードのうち，シラバスでの記載がもっとも多かったものは「アセスメント」で，81校（65.85%）のシラバスに示されていた。次いで，「コミュニティ」30校（24.39%），「研究活動・研究」27校（21.95%）と続き，もっとも少なかったものは「科学者 - 実践者モデル」で2校（1.63%）に留まった（表3を参照）。

表3　シラバスに各キーワードの記載があった大学数

キーワード	大学数
アセスメント	81（65.85%）
コミュニティ	30（24.39%）
研究活動・研究	27（21.95%）
実践活動	12（9.76%）
エビデンスベースト	8（6.50%）
科学	8（6.50%）
専門活動・社会的専門活動	8（6.50%）
コラボレーション他	7（5.69%）
生物－社会－心理モデル	4（3.25%）
統合的介入	3（2.44%）
科学者－実践者モデル	2（1.63%）

11種類のキーワードすべてが記載されたシラバスはなかった。もっとも多かったのは，10種類のキーワードを記載したシラバスで，1校のみであった。他の122校のシラバスに示されたキーワードの数は5個以下で，もっとも多かっ

たのは1個の57校（46.34%）であった。19校（15.45%）のシラバスで，いずれのキーワードも記載されていなかった（表4を参照）。

表4　シラバスに示されたキーワードの種類の数別大学数

キーワードの種類の数	大学数	
11種類	0	
10種類	1	（0.81%）
5種類	2	（1.63%）
4種類	7	（5.69%）
3種類	11	（8.94%）
2種類	26	（21.14%）
1種類	57	（46.34%）
なし	19	（15.45%）
計	123	

「臨床心理学」で教科書を指定しているのは計59の大学で，そのうち14校（23.73%）の大学で下山晴彦編集（2009）『よくわかる臨床心理学 改訂新版』が用いられ，もっとも多い。次いで，森谷寛之・竹松志乃編集（1996）『はじめての臨床心理学』が4校（6.78%），野島一彦編集（1995）『臨床心理学への招待』が3校（5.08%）と続いた。

参考書に関しては，事典を含めさまざまな書籍が指定されているが，もっとも多いのは下山（2009）の『よくわかる臨床心理学 改訂新版』で，11校の大学で指定されている。なお，森谷・竹松（1996）の『はじめての臨床心理学』を参考書に指定している大学はなかったが，2校で野島（1995）の『臨床心理学への招待』が参考書として指定されている。

教科書および参考書として使用率の高いこれら3冊について，上述の11種類のキーワードがどのくらい記されているかを調べた。下山（2009）の『よくわかる臨床心理学 改訂新版』では，「統合的介入」以外の10種類のキーワードが記載されている。また，臨床心理学と心理臨床学が区別され，臨床心理学と心理療法，カウンセリングの違いと関係についても説明されている。

森谷・竹松（1996）の『はじめての臨床心理学』に記載されているキーワードは「アセスメント」「コミュニティ心理学・臨床心理的地域援助」「臨床心理学的研究」「コンサルテーション」の4種類であった。心理学は実験心理学と臨床心理学の2分野に大別されると説明され，臨床心理学と心理臨床学は明確に区別されていない。

野島（1995）の『臨床心理学への招待』では「心理アセスメント」「コミュニティ・アプローチ」「コンサルテーション」の3種類のキーワードが記載されている。心理学では基礎心理学と応用心理学に大別され，臨床心理学は後者の一領域であると説明されているが，臨床心理学と心理臨床学の違いに関して明確な説明は示されていない。

4－5　まとめ

調査結果から，調査対象の約85%の大学のシラバスに，臨床心理学の特徴を示すキーワードが少なくとも1種類は記載されていることが示された。また，調査対象の約20%の大学が教科書または参考書として指定する『よくわかる臨床心理学 改訂新版』（下山，2009）では，これらのキーワードがほとんど網羅されている。したがって，大学院では心理臨床学を専門としているが，学部では決して十分ではないものの，基礎心理学に基づいた臨床心理学を教育しようとする姿勢が窺われる。少なくとも学部の臨床心理学教育は心理臨床学に偏っていないと考えられる。

日本ではこれまで「臨床心理学はほとんど機能していない」（下山，2010）「臨床心理学が定着していない」（丹野，2006）と指摘されてきた。しかし，学部の心理学専門教育科目「臨床心理学」のシラバスから見ると，大学において，本来の臨床心理学を教育しようとする趨勢が生まれていると言えよう。公認心理師の国家資格化が実現すれば，この趨勢はますます強まり，進歩の遅かった日本の臨床心理学がようやく育ち，発展していくものと期待される。

5　大学教育における「臨床心理学」のこれから

これまで述べてきたように，これまで日本では臨床心理学の発達は立ち遅れてきた。しかし，臨床心理学を育む素地が整いつつある今，最重要課題となるのは臨床心理学をいかに育てていくかという問題である。大学の学部教育においてその一翼を担う必要がある。そこで，臨床心理学を育てていくために，大学の学部教育でど

のようなことが求められるかを考えていきたい。これにより，大学における基礎心理学と臨床心理学の教育のあり方を明確に示すことができると思われる。

大学の臨床心理学教育に求められることとして，次の３つが挙げられる。まず，必要不可欠なことは，大学の心理学教員全員が，臨床心理学とはどのような学問かを正確に理解し，心理療法，カウンセリングと明確に区別して説明できるようにすることである。大学の心理学教員，基礎心理学だけでなく臨床領域の教員であっても，この三者を明確に区別して説明できる教員は少ないと推察されるからである。

２点目として，カリキュラムの中に臨床心理学，心理療法およびカウンセリング心理学を適切に配置することが挙げられる。前述したように，心理臨床学会が作成した，公認心理師（仮）の受験資格取得のための学部教育カリキュラム案では,「臨床心理学概論」と「心理療法論」「認知行動療法論」「カウンセリング心理学」がそれぞれ独立した科目として，臨床心理学関連科目のなかに設けられている。公認心理師（仮）の国家資格化実現の可否にかかわらず，学部カリキュラムに臨床心理学，心理療法，カウンセリング心理学を適切に配置する必要がある。

その上で，基礎心理学と，臨床心理学，心理療法，カウンセリング心理学の関係を，例えば図３のようにビジュアル化したものを授業等で示し，学生にわかりやすく説明することが重要である。この３つの実践は大学における心理学教育を具体的に示したものであると同時に，大学の学部教育で臨床心理学が育ち，基礎心理学と臨床心理学，心理臨床学が適切な関係を築くことにつながる。これが実現すれば，学生は基礎心理学の科学性と臨床心理援助の専門性をバランスよく修得することができる。

これから臨床心理学を発達させ，臨床心理学を修めた専門家を育てていくことは，人々の精神的健康の維持・増進に大きく寄与する。その実現のために，大学院だけでなく学部における臨床心理学教育が担う役割は大きい。今こそ，大学での臨床心理学教育を見直し，真の臨床心理学確立のために舵を取るときなのである。

引用文献

森谷寛之・竹松志乃（編）（1996）．はじめての臨床心理学　北樹出版

日本学術会議（2008）．心理学・教育学委員会心理学教育プログラム検討分科会
心理学・教育学委員会健康・医療と心理学分科会対外報告「学士課程における心理学教育の質的向上とキャリアパス確立に向けて」

日本心理学会　「資格取得に必要な単位と科目名例」
http://www.psych.or.jp/qualification/standard_new.html（2015 年 6 月 4 日）

野島一彦（編）（1995）．臨床心理学への招待　ミネルヴァ書房

下山晴彦（編）（2009）．よくわかる臨床心理学　改訂新版　ミネルヴァ書房

下山晴彦（2010）．これからの臨床心理学　東京大学出版会

丹野義彦（2001）．エビデンス臨床心理学－認知行動理論の最前線－　日本評論社

丹野義彦（2006）．認知行動アプローチと臨床心理学－イギリスに学んだこと－　金剛出版

注 1）「公認心理師」（仮称）受験資格学部教育カリキュラム案は，一般社団法人 日本臨床心理学会公式ページ http://www.ajcp.info で確認ください。

注 2）臨床心理士の受験資格は，文部科学省から認証を受けた臨床心理士養成のための大学院専門職学位課程（いわゆる専門職大学院）を修了することによっても取得できる。

注 3）この「臨床心理学特論」は，学部 2 年･3 年･4 年を対象学年とする専門科目である。